

令和6年度 1年次生 学びのプラン

教科名	芸術	単位数 (コマ数)	2単位 (2コマ)	履修年次	1年次		
科目名	美術Ⅰ	履修	必履修(選択)	開講	通年		
教科書	高校生の美術1（日本文教出版）	副教材					
1 学習の目標							
○美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高める。 ○創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。							
2 学習の方法							
表現と鑑賞の2つの領域について、次の内容を学習します。 ○表現 絵 画…… 油彩画の制作を通して、デッサンの基礎(静物・人物)、油絵の具の扱いの基礎を身に付け、生成した主題を追求した表現を目指します。 デザイン…… 新製品の企画と資料の制作、プレゼンを通して、デザインの基礎を身に付け、創造的な表現を目指します。 ○鑑賞 制作した作品を互いに鑑賞し合います。また様々な美術作品に触れ、作品のよさ、作者の心情や意図と表現の工夫などを感じ取り、理解を深めます。							
3 評価について							
①評価の観点							
知識・技能	創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて、表現方法を工夫して表している。						
思想・判断・表現	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから主題を生成し、創造的な表現の構想を練っている。						
主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。						
②評価の方法							
	材料	ワークシート	アイデアスケッチ	制作過程	作品	発言	評価方法
知識・技能		○	○	○	○	○	ウォーミングアップ、作品、課題、ワークシート、グループワークのできばえや取組状況によってA,B,Cを付ける。 A: 十分満足できる B: おおむね満足できる C: 努力を要する
思考・判断・表現		○	○	○	○	○	
主体的に学習に取り組む態度		○	○	○	○	○	
4 その他							
「表現」と「鑑賞」 ・年間計画を見て、美術の時間は表現がほとんどで、鑑賞の時間はわずかだと思ったかもしれませんが、しかし、鑑賞は大切です。よい input がなければよい output は望めないからです。表現と鑑賞は一体のものとも言えます。 ・制作に当たっては、友人の作品や有名な作家の作品から学び、自分の表現としましょう。 ・特設の鑑賞の時間には様々なトピックについて考えてもらいます。楽しみにしててください。							

5 単元の目標・評価										
単元名	鉛筆素描									
単元の目標	デッサンの基本的な技法、形を取る、奥行きを表現する、明暗をとらえ立体的に表現する力を身につける。									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	透視図法を理解し、空間の奥行きを表現することができる。光の方向を考え物体の陰影を表現し立体感や質感を表現できる。			デッサンの技法を活用し、奥行きのある想像の空間と物体を構想し描くことができる。			作品の構想に独自のアイデアを取り入れ工夫して画面の魅力を高めようとする意欲がみられる。			

単元名	静物画									
単元の目標	台上に並ぶ静物のデッサンの基礎について知る。油絵の具について知り、特性を生かして扱う。									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	絵画の歴史と、油彩の基本的用法、特性や活用法を理解しようとする。			モチーフの配置や画面構成、光の方向、質感などをよく観察し、魅力的な画面を描こうとする。			絵画作品に関心を持ち、自分の表現したい作品を描くために技能を身につけ、試行錯誤を重ね制作する。他の生徒の作品を見て、そのよさや美しさを味わっている。			

単元名	鑑賞(映像メディア表現)									
単元の目標	映像メディアを使用した様々な作品を鑑賞し、その効果などを感じ取り、理解する。企画案を作成する。									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	芸術、デザインの歴史と現在の新しい表現技術を映像等で鑑賞する。メディア技術を活用した作品の企画を考え作図する。			鑑賞した作品を参考に、メディア技術を活用した作品の企画を考え作図する。			作品の設置方法や鑑賞、体験の仕方を工夫する。			

単元名	新製品(デザイン)									
単元の目標	工業デザインを理解し、新しいバリエーションをデザインする。									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	デザインが日常生活・文化・社会の発展を維持するうえで重要な役割を担っていることに関心を持ち、自らも創造しようとする意欲を持つ。			生活の中で、使いやすさや、楽しさで人々を幸せな気持ちにできるようなデザインの工夫を考える。プレゼンを行い自分の企画の魅力を伝える。			デザイン製品を見てそのよさや美しさを創造的に味わっている。自ら情報を集め活用しより魅力的な企画を考えようとする。			

単元名	人物画									
単元の目標	自画像を描くことを通して自己を見つめ、自分らしさについて考える。 油絵の具の特性を生かして、創造的に自分らしく表現する。									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	人物の基本的な描写、個人の 特徴の意識と描き方を理解す る。油彩の特性を生かし、微妙 な色彩の変化、立体感のある 自画像を制作する。			自画像の表情や色彩などで自 分の描きたい雰囲気を創り出 している。			絵画作品に関心を持ち、自分の表 現したい作品を描くために技能を 身につけ、試行錯誤を重ね制作す る。他の生徒の作品を見て、その よさや美しさを味わっている。			

単元名	鑑賞（絵画・彫刻）									
単元の目標	日本の伝統美術のよさや美しさについての理解を深める。									
育成を目指す力	傾聴力	発信力	想像力	創造力	計画力	知識活用力	分析力	課題発見力	自己肯定力	行動力
評価の観点	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
評価規準	創造が文化・社会の発展を維 持するうえで重要な役割を担っ ていることに関心を持ち、自ら も創造しようとする意欲を持 つ。			作品を鑑賞して生まれてくる感 情や感想を意識し文章として 現す。感想の共有を行い、多 様な考え方、感じ方があること に気づく。			美術作品を見てそのよさや美しさ を創造的に味わっている。			

6 年間計画				
学期	月	単元	項目	数時定予
前期	4	オリエンテーション	1年間の学習の流れについて知る。	2
	5	鉛筆素描	透視図法について学ぶ。 奥行きのある空間と配置する物体を構想する。 透視図法、光の方向、陰影の表現方法を活用し鉛筆構想デッサンを制作する。	8
	6	静物画(絵画・油彩)	下描き キャンバスについて理解する。 バランスを考えてモチーフを選び、構成して構図を決める。 絵具・溶き油・用具について理解し、油絵に関心をもつ。 油絵の具の乾燥のメカニズムについて理解する。 色の重なるの効果を考え、彩色の見通しをもち、彩色する。	14
	7		地塗り 光の方向を意識して陰影をとらえ、質感を表現する。 試行錯誤しながら混色・重色を工夫する。	
	8		下塗り 中塗り 上塗り 仕上げ・鑑賞 画面全体を見て、色調や質感を整えて仕上げる。 互いの作品を鑑賞し、よいところを見つけ合う。 今回の制作から課題を見つけ、次の制作への意欲を持つ。	
	8	鑑賞(映像メディア表現)	様々なメディアアート作品を映像で鑑賞し技法について知り、そのよさを味わう。 簡単な作品アイデア案を考えラフスケッチをする。	4
	9	新製品企画 (デザイン)	デザインについて 様々な商品のデザインを見て、表現意図を感受する。 構想 自分の好きな商品のバリエーションを考える。 必要な資料を収集する。 スケッチを重ね、製品の構図・配色のアイデアを練る。	18
	10		下描き 彩色 マーカ―、ポスターカラー等で彩色する。 仕上げる 画面全体を見て、色調を整えて仕上げる。	
	11		プレゼン 企画案図を投射し全体に説明、質疑応答。 鑑賞する 友人の作品を鑑賞し、よいところを見つける。 今回の制作から課題を見つけ、次の制作への意欲を持つ。 感想、評価シート	
		鑑賞(絵画)	作者の生き方に触れ、作風の変遷について考え、そのよさを味わう。	2
後期	12	人物画(絵画・油彩)	鉛筆デッサン 目・鼻・口の細部の名称、形状を知る。 様々な視点から自分の顔をデッサンする。 油彩画 下絵をかく 心理状態などを表現するための効果的な構図を決める。 顔の向きを意識してデッサンする。	18
	1		下塗りをする 色の重なるの効果を考え、彩色の見通しをもち、彩色する。	
	2		かき進める 心理状態に合った表情、存在感を表現する。 混色・重色を工夫し、自分らしい表現をする。	
			仕上げる 画面全体を見て、色調や質感を整えて仕上げる。 鑑賞する 互いの作品を鑑賞し、よいところを見つけ合う。 1年間の制作について振り返り、創造の意義について考える。	
		鑑賞(絵画・彫刻)	日本の伝統美術のよさや美しさについての理解を深める。	2